

【教科名】 機器分析実験 Experiments in Instrumental Analysis <履修単位科目>						
学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
5	物質化学工学科 応用化学工学コース	(必修) 2	前期	15	4	60
【担当教員】 竹原 健司*、井上 祐一 【教員室】 7号館 2階* 【TEL】 964-7241* 【e-mail】 takehara@kct.ac.jp* 前田 良輔、小畑 賢次、山本 和弥						
【授業目的と概要】 研究、開発、製造の各分野において高速かつ高感度の分析が必要とされ、種々の機器分析法を理解することが要求されている。本実験では、実際の試料と分析機器類を用いた分析を行い、分析機器の原理、分析法、データ解析法について学習する。「卒業研究」で必要となる分析データの取得に応用することが可能な能力を育成する。						
【授業の進め方及び履修上の注意】 10個のテーマについて、授業の前半は理論の説明、後半は実験および解析を5班のローテーションで行う。実験中には内容に関して適宜質問を行い、実験終了後はデータ整理・解析を行わせ試問を行い、実験内容の理解を確認する。実験結果と考察を含むレポートを1週間以内に提出すること。レポートの内容に不備が認められる学生には、再レポートを課す。各レポートの受理により各実験の終了とする。最終週では試験を行う。						
授 業 項 目	内 容					時間
【前期】						
・説明	実験全般のガイダンス 実験内容の説明					4 8
・実験項目	<ul style="list-style-type: none"> ・熱分析実験〔熱天秤・示差走査熱量計〕 ・核磁気共鳴分析実験 ・質量分析実験 ・赤外分光分析実験 ・紫外可視分光分析実験〔溶液系・粉体系〕 ・X線回折分析実験 ・液体クロマトグラフィー実験（タンパク質の分離、分析） ・ヒト細胞による物質分析及び機能検索手法の実験 					40
・レポート整理、試験						8
(定期試験を行わない)						
【後期】						
【達成目標】 ・各種機器分析手法について、原理、分析法、データ解析法を説明できる ・分析機器を利用・応用できる。			【教科書】 入門機器分析学 三共出版、庄野利之、脇田久伸編著 【参考書】 機器分析入門 南江堂、日本分析化学会九州支部編			
JABEE 教育目標	(B)①②, (C)①②③④, (E)②					
準学士課程目標	(B)①②, (C)①②③④, (E)②					
成績 評価	【評価基準】 全ての実験を行い、適切にまとめられたレポートを全て提出すること。さらに、下記評価方法に従った総合評価において60点以上を合格とする。 【評価方法】 実験レポート 90% (全実験の平均)、試験 10%			【オフィスアワー】 担当教員毎に異なるので、初回説明時に連絡する。		